

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○ ● 国語 ● ○

国語A (領域ごと) 話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった 書くこと 概ね良好な結果であった 読むこと 概ね良好な結果であった 言語事項 概ね良好な結果であった (問題形式) 選択式 概ね良好な結果であった 短答式 概ね良好な結果であった 記述式 なし (無解答率) 概ね良好な結果であった (その他)	国語B (領域ごと) 話すこと・聞くこと なし 書くこと 良好な結果であった 読むこと 概ね良好な結果であった 言語事項 なし (問題形式) 選択式 概ね良好な結果であった 短答式 概ね良好な結果であった 記述式 良好な結果であった (無解答率) 概ね良好な結果であった (その他)
---	--

分析

全体的に概ね良好な結果であった。どの領域もほとんど全国平均を上回る結果であった。

問題とその趣旨を正答率と照らすと、慣用句、漢字の読み、歴史的仮名遣い、といった知識に課題があると見受けられる。一方で、話す・聞く能力は定着しているとみてよい。

無解答率も全国平均を上回る問題がほとんどなく、意欲的に問題に取り組む姿勢ができています。

慣用句等の言語に関する知識については、小テストを実施するなどして知識量を増加させていきたい。

B問題での無解答率が低かったことから、書こうとする意識は付いているものと思われる。

○ ● 算数・数学 ● ○

算数・数学A

(領域ごと)

数と計算

良好な結果であった

量と測定

概ね良好な結果であった

図形

概ね良好な結果であった

数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

選択式

概ね良好な結果であった

短答式

概ね良好な結果であった

記述式

なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

算数・数学B

(領域ごと)

数と計算

概ね良好な結果であった

量と測定

概ね良好な結果であった

図形

良好な結果であった

数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

選択式

概ね良好な結果であった

短答式

概ね良好な結果であった

記述式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

分析

全体的に概ね良好な結果であった。どの領域も全国平均を上回る結果であった。全国と比べて無解答率が低く、評価の観点「数学的な見方や考え方」の問題を多く解答できている。普段の授業で説明する時間や自分の考えを発表する場が多くなったことが理由として挙げられる。特に数学Bの問題では、全国と比べて無解答率が低い問題がほとんどである。低学力層の生徒でも、最後まであきらめずに問題を解こうとする姿勢が見られる。

問題別で分析すると、「数と式」、「関数」、「図形」はよくできている。等式、方程式の問題、関数の問題での正答率が高く、身近な事象と関連付けた問題も正答率が高い。また、記述問題の正答率が高く、良好な結果であった。しかし、「資料の活用」領域の問題の正答率が低かった。このことから、分野によって正答率の差がでないように、授業の工夫が必要である。

昨年度に引き続き、今年度も無解答率が低かったことから、今後もクラスの集団作りと結びついた教科指導（学習集団作り）をすすめる。また、生徒一人ひとりの基礎学力の充実と定着をはかり、生徒一人ひとりが「わかる喜び」「できる喜び」を体感し、生き生きと参加できる授業を創造していく。

○ ● 経年比較 ● ○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は平成24年度より上昇していたが、今年度はわずかではあるが、減少した結果となった。教科別に見ると、国語Bと数学Aは上昇しているが、国語Aと数学Bは減少している。分析としては、ここ3年間と同様、「メロディ・チャイム」により、チャイムで授業を開始できるようになったこと、言語活動の機会が多くなったことがあげられる。また、校内研修会などで、教師の一致した意識改革もあげられる。

平成25年度より無解答率が減ってきていることが、数年間の成果の一つである。授業時の約束や授業Standardを意識している結果である。今後も継続して指導を行う。

学力高位層と学力低位層についての分析

ここ2年間、学力低位層が減り、学力高位層が増え、正答率も伸びている。学力低位層の生徒が最後まであきらめずに問題を解こうとする姿勢が見られる。

昨年度と同様、どの教科も学力高位層の人数が学力低位層の人数を上回っていることは、今年度の成果である。特に数学Aでは、学力高位層の人数が学力低位層の人数を大きく上回っている。また、国語A、Bでは、2年前まで、学力低位層の人数の方が多かったが、それが改善された結果となった。また、どの教科も無解答率の減少が、学力低位層の減少につながっており、学力低位層の生徒への学力補充の取り組みが、学習意欲の高まりとなっている。

○ ● 取り組み ● ○

学力向上に関する取り組み

継続して取り組んできたこと

- ・ 授業の始めに「学習目標」の提示
- ・ テスト週間、夏季休業中の学習会の実施
- ・ 「学びのステップ」の掲示
- ・ 少人数加配での、数学・英語での習熟度別授業の実施
- ・ 「学習の手引き」の配布
- ・ 「言語表現活動」のある授業の推進
- ・ 「授業時の約束」の掲示
- ・ 校内研究授業・研修会の実施
- ・ 毎朝の「朝読」の推進・定着

新たに取り組んできたこと

平成25年度より

- ・ 「学習班」(4人班)の活用
- ・ 中学校区すこやかネットでの学力担当の連携

平成26年度より

- ・ 「学習の振り返り」の導入
- ・ 「授業時の約束(生徒用・教師用)」の見直しと掲示
- ・ 「学習の手引き」の見直し・改訂
- ・ 「指導と評価の一体化」にむけ、教科会の活性化

平成27年度より

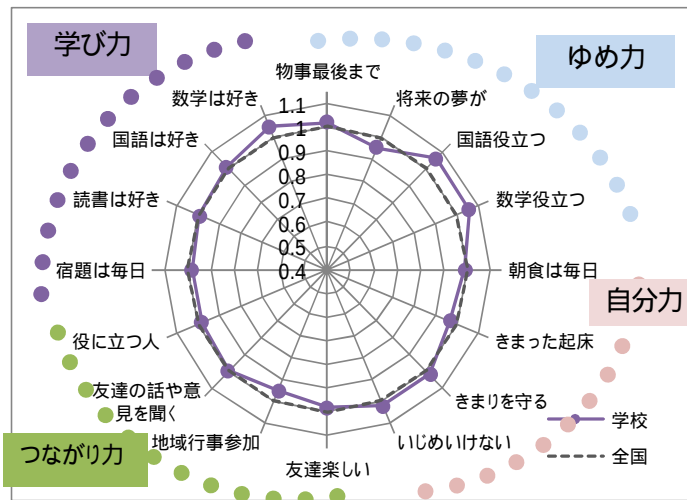
- ・ 「指導と評価の一体化」をテーマにした研究授業、研修会の年3回実施
- ・ 「授業Standard」を意識した研究授業、研修会
- ・ 「評定の範囲」をもとに、各教科において、授業や評価の見直し、検討
- ・ 教育課程委員会において、評価に関する見直し、検討
- ・ 「テスト時の注意、テスト監督時の注意」の見直し、改訂

平成28年度より

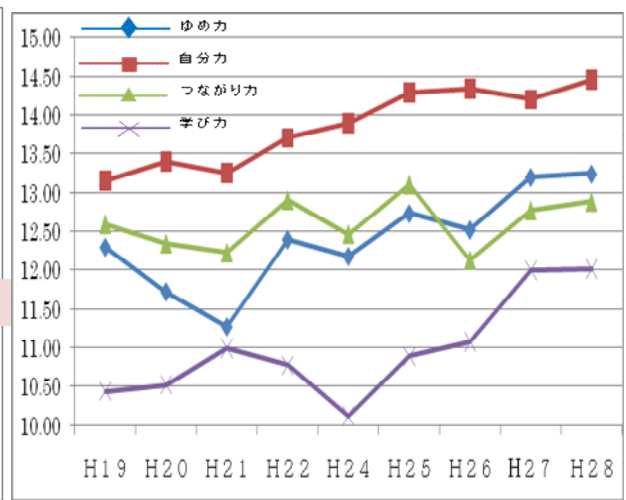
- ・ 「言語活動を取り入れた、クラスの集団作りと結びついた教科指導、学習集団作り」をテーマにした、研究授業、研修会の年3回実施
- ・ 「アクティブ・ラーニングの必要性」をテーマにした校内研修会の実施
- ・ 「評定の範囲」をもとに、各教科において、授業や評価の見直し、検討
- ・ 教育課程委員会において、評価に関する見直し、検討
- ・ 「学びのステップ」の効果的な活用

子どもたちに育みたい力

今年度の結果



これまでの推移



分析

「ゆめ力」については、将来の夢について展望を持っている生徒が全国と比べて少ないが、本校でも「将来の自分の夢」が昨年度より少ない。しかし、国語や数学が将来のために役立っていると考えている生徒は多い。今後も、将来の自分の夢と、今自分が学んでいることがどのように結びついているかを示していく必要がある。本校では、18歳時点での生徒の姿を見通したキャリア学習を推進しているが、さらに教科との連携を考えていく必要がある。

「自分力」については、「きまりを守る」「いじめはいけぬ」に関して、生徒自身が学校生活を大切にしようとしている意識が育っている。生活委員会による毎月の生活の目標設定や生徒指導通信の活用により、昨年度と同様にルールを守る生徒が増えた。また、「いじめ」について考える学活や生徒会等の自主活動により、いじめについて考え、「いじめをなくそう」という意識も育ってきている。起床時間や朝食は、全国と比べて満足度のいかないう結果となっている。家庭での生活習慣も、生徒の学習意欲につながっているため、生徒および家庭に促していく必要がある。

「つながり力」については、昨年度より、仲間のことを考える力もあり、自分たちから主体的につながろうとする力もある。「友達といるのが楽しい」だけでなく、「友達の話を聞く」ことにも意欲的である。今後も日々の学校生活の中で、自尊感情をさらに高めていく必要があると考えられる。また、つながることの心地よさをさらに体感していく場面を学校生活の中で設定していく必要がある。

「学び力」については、自ら進んで探求していく力を育てていく必要がある。また、朝の読書を毎日実施しているが、読者が好きな生徒は全国と比べて少ない。今後も、朝の読書の取り組みを、図書委員会などと連携して積極的に取り組んでいく必要がある。国語や数学が好きな生徒は全国と比べて多い。今後も学習集団作りを意識した授業づくりが必要である。宿題に毎日取り組む生徒も全国と比べて少なく、家庭学習の大切さも伝えていく必要がある。

取り組み

「ゆめ力」について

- ・18歳時点での生徒の姿を見通した人権総合学習の実施

「自分力」について

- ・委員会活動による、ポスターの作成と呼びかけの実施。生徒指導通信の発行
- ・道徳教育の推進
- ・自主活動の活性化により、「自尊感情」を向上

「つながり力」について

- ・班ノートや学級通信、班活動の活用による「質の高い集団づくり」の推進
- ・「夢ふれあいフェスタ」や「地域一斉クリーン作戦」など中学校区青健協の地域の取り組みに参加し、地域の大人と生徒をつなぐ取り組み

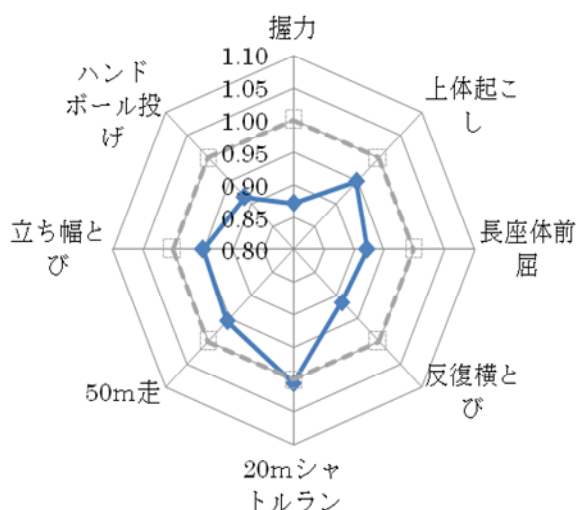
「学び力」について

- ・基礎基本の徹底（テスト前学習会や夏季休業中の学習会）
- ・家庭学習のてびきの全家庭配布
- ・授業におけるクラスの集団作りと結びついた教科指導「学習集団作り」の推進

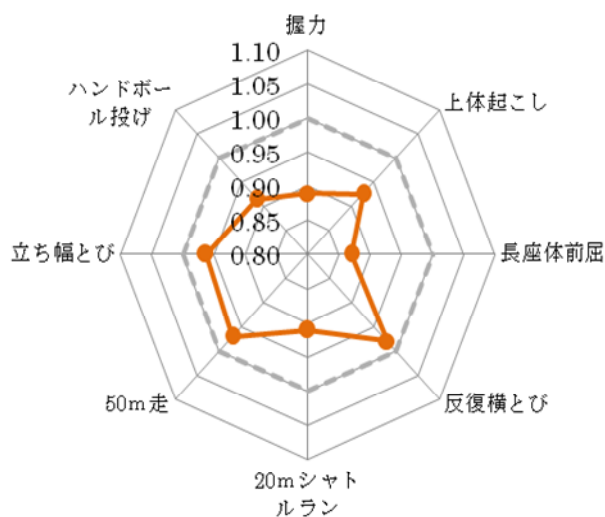
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○ ● 体力 ● ○

男子 (中 2)



女子 (中 2)



分析

- ・男女とも多くの分野で全国平均を下回っている傾向がみられる。年少期から外遊びが少ないことと、小学校の時期に地域のスポーツクラブ、子ども会への参加が少ないことも一つの要因と考えられる。
- ・男子は20mシャトルランが上昇した。それ以外の種目は向上には至っていないが体づくり運動を導入して体力向上に取り組む。
- ・女子は50m走・握力での伸び率が高かった。しかし、すべての種目で全国平均を下回っているため、体づくり運動や筋力トレーニングを導入し体力向上に取り組む。

取り組み

- ・体育科教科会等において、課題の検討と改善策の明確化を行い授業に活かす。
- ・短期的な取り組みでは、授業中での補助補強運動での筋力を上げるトレーニングの種類を増やす。
- ・長期的な取り組みでは、3年間の計画的な体力向上の組織的な取り組みを進めていく。
- ・三島中校区内の小中連携による体力向上の取り組み、検討会を進めていく。

2

3年間の計画

(各校)		(ブロック共通)	
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	互いの意見を比較・検討し、自分の考えをより深め発表できる生徒を育てる。	体力向上にむけ、運動に親しむ能力を向上することにより生涯スポーツにつなげる。また、体力向上から健康増進につなげる。	保幼小中で18歳時点でのめざす子ども像を共通理解し、子どもの発達課題に合わせた実践を行う。
平成26年度	・「言語表現活動」がある授業の実施 ・「学習班」(4人班)の活用 ・「学習の振り返り」の導入 ・「授業時の約束(生徒用・教師用)の見直しと掲示(言語表現活動の到達別目標の掲示) ・「学習の手引き」の見直し・改訂 ・「指導と評価の一体化」にむけ、教科会の活性化	・体力テストにより個の力の分析と理解 ・校内授業研の実施 ・体づくり運動の実施 ・3学年の運動内容の統一 ・教科会の実施により分析改善 ・授業での運動量、運動強度を増やす	それぞれの発達段階の理解 ・小中合同授業研 ・授業研、公開保育などへの参加 ・行事交流、授業参観 ・部活動の交流 ・授業スタンダードの確立
平成27年度	・「授業時の約束」(言語表現活動の到達別目標)の定着と推進 ・「学習目標」と「振り返り」の定着 ・「家庭学習」の定着 ・「指導と評価の一体化」の定着・検証	・平成26年度の取り組み内容の成果課題の分析・改善 ・体力テストの実施 ・前年度の結果との比較 ・部活動の活性化 ・部活動加入率の増加を目指す	平成26年度の内容に加えて、 学力向上につながる授業作り ・中学校区保幼小中連携カリキュラムの作成 ・保幼小中連携会議の実施 ・中学校教育による出前授業の実施
平成28年度	・「授業時の約束」(言語表現活動の到達別目標)の検証と改善 ・「家庭学習」の検証と改善 ・「言語表現活動」を中心とした授業づくりのさらなる推進 ・「指導と評価の一体化」の推進 ・クラスの集団作りと結びついた教科指導「学習集団作り」の推進	・平成27年度の取り組み内容の成果課題の分析・改善 ・体力テストの実施 ・前年度の結果との比較 ・比較後、伸長や全国平均を分析し、補強運動の実施。 ・部活動の活性化 ・部活動加入率の増加を目指す	平成27年度までの内容に加えて、 学力向上につながる授業づくりの検証、改善、実施 ・中学校区保幼小中連携カリキュラムの作成・実施 ・中学校区保幼小中連携カリキュラムに基づいた小中合同授業研・研修会の実施